

海溝型地震の被害想定と減災

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の発生が懸念されるなか、内閣府の有識者検討会は2021年12月にその津波浸水想定を発表し、本年7月には北海道による被害想定が公表されました。

本シンポジウムでは、地震発生メカニズムや津波浸水・被害想定のお考え、積雪寒冷地における避難行動や避難所運営に関する知見を発信し、連鎖複合災害や効果的な減災対策について議論します。

令和4年11月2日(水)

釧路港と釧路市街を望む

参加
無料

Live
配信あり
(YouTube)



Live配信は
こちら

時間: 13時00分～16時10分(12時30分開場)

場所: コーチャンフォー釧路文化ホール「小ホール」

◆来場希望の場合◆

申し込み不要です。当日、直接会場にお越しください。満席となった場合は入場をお断りさせていただきます。

◆オンライン配信希望の場合◆

申し込み不要です。YouTubeアドレス(<https://youtu.be/JJ219hSjQqc>)から視聴ください。

※新型コロナウイルス感染状況により無観客又はLive配信のみの可能性があります。来場希望の方もLive配信でご参加ください。

※本シンポジウムは、検温・消毒など感染予防に配慮して開催します。

※車いすでご来場予定の方はあらかじめお知らせください。

問い合わせ＝読売新聞北海道支社総務部(011・242・5630、平日の午前10時～午後5時)

プログラム

- 13:00 開会挨拶 寶金 清 博(北海道大学総長)
- 13:05 開催式辞 鈴木 直 道(北海道知事) ■ 代読: 吉 川 政 英(北海道総務部危機対策局長)
- 13:10 趣旨説明 山 田 孝 (北海道大学広域複合災害研究センター長)
- 13:15 基調講演1 蝦 名 大 也(釧路市長)「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に伴う最大クラスの津波への対応について」
- 13:35 基調講演2 岡 田 成 幸(北海道大学名誉教授)「被害想定概要と課題 ～社会が議論すべきこと～」
- 13:55 パネルディスカッション ■ コーディネーター: 岡 田 成 幸

<パネラーおよび話題提供タイトル>

- 谷岡勇市郎(北海道大学教授)「釧路市で想定されている津波浸水」
- 橋 本 雄 一(北海道大学教授)「GISで考える津波避難」
- 山 口 真 司(北海道大学特任教授)「海溝地震における土砂災害への対応」
- 根 本 昌 宏(日本赤十字北海道看護大学教授)「寒冷期災害における命を護り健康を保つための課題」
- 草 苺 敏 夫(釧路工業高等専門学校名誉教授)「冬季を想定した避難と避難所運営(DIGとHUGの活用)」
- 田 村 桂 一(国土交通省北海道開発局事業振興部調整官)「防災・減災のためのインフラ整備と応急対策」
- 大 西 章 文(北海道総務部危機対策課防災教育担当課長)「道民みんなで取り組む災害に強い北海道」
- 伊 藤 剛 (読売新聞北海道支社編集部次長)「巨大地震における情報収集と伝達の課題」



蝦名大也 氏



岡田成幸 氏

16:05 閉会挨拶 平尾 武 史(読売新聞北海道支社長)

■ 総合司会: 桑 原 有 樹(読売新聞北海道支社次長)

主催: 北海道大学広域複合災害研究センター、読売新聞北海道支社、
一般社団法人国立大学協会 ※北海道大学と読売新聞北海道支社は包括連携協定を結んでいます

後援: 北海道開発局、北海道、釧路市

